

第5回総合計画市民会議（グループ討議）議事摘録

日 時 平成16年年1月31日（土） 14:00～16:30

場 所 幸市民館 大会議室

出席者 中村ノーマン座長、大枝副座長、中村紀美子副座長、有北委員、伊中委員、岩田委員、岩本委員、上野委員、大下委員、鈴木委員、高橋委員、パク委員、松崎委員、望月委員、森委員、淀川委員、渡邊委員

事務局 北條総合企画局長、三浦企画部長、木場田政策部長、田中企画調整課長、瀧峠企画調整課主幹

議 題 まちづくり（自然・インフラ）

公開及び非公開の別 公開

傍聴者 1名

議事

グループ討議（Aグループ）

Aグループ委員 有北委員、岩田委員、大下委員、大枝委員、高橋委員、中村ノーマン委員、パク委員、森委員

事務局委員 飛弾政策評価担当主幹、赤羽副主幹、箕輪主査

市民委員

- ・ 議論方法について意見ありますか。

市民委員

- ・ 課題、目標、施策の3つに分けてそれぞれ10分くらいで議論をしてほどうか。その後議論をしよう。そういう方法で前提を共有したい。

市民委員

- ・ 全員で課題、目標、施策の順で議論をするということですね。

市民委員

- ・ はい。

市民委員

- ・ その流れで進める。付箋に意見を書いて、張っていく方法をとりたい。

市民委員

- ・ 座長・副座長以外との話しもあったが、時間も貴重なので進行役を引き受ける。
- ・ 課題、目標、施策の3テーマに区切って意見を出して欲しい。テーマは街づくり。最初に静かに書く時間を設けたい。3分くらい時間をとる。

- ・ 順に出してください。一段落出したあとで追加も OK です。

市民委員

- ・ 河川が下水化している、遊べる道がない、自然が失われている。

市民委員

- ・ ゴミを捨てることを有料に、使い捨てを減らすために。

市民委員

- ・ 防災インフラ（道路、広場、コミュニティ単位で確保、密集地対応）街づくりに関する適切な情報公開と市民との会話、歴史を守る等の営み、情報公開、ストックインフラ（財産として市民が持っている資産、市民館など）の共有化。

市民委員

- ・ 施策・提案と課題の紙を分けよう

市民委員

- ・ 人口増加地域の保育施設、子ども関連施設の老朽化、子育てバリアフリー、拠点までの道路の安全確保、子どもの遊べる道づくり、自然を残した遊び場、公園、プレイパーク。

市民委員

- ・ プレイパークと公園の違いは

市民委員

- ・ プレイパークはプレイリーダーがいる、プログラムの名前。各区単位でそのプログラムが実施できる場所が欲しいということ。

市民委員

- ・ 課題を挙げ始めるときりがない。抽象的にならないようにどこに収斂させていくのが気になる。

市民委員

- ・ 川崎のアイデンティティーが欲しい。これが街づくりの基本。それに向けて今の課題を位置づけては。

市民委員

- ・ 施策と課題と結びつけるための仕組みが必要。これは次回の共同のテーマだと思う。仕組みの話をした。

市民委員

- ・ 施策実現の仕組みの枠を作ろう。

市民委員

- ・ 市民主体の町づくりのアドプトプログラム（維持を市民が里親として担う仕組み）コンパクトシティ、都市マスの議論をすると区も大きい、多摩区では5地域に分けて3万人の暮らしを考えている。そのくらいの規模で自律して考える。
- ・ 川崎市全体、多摩区全体ではなく、基本的なコンパクトな単位で街づくりを考えていく必要がある。川崎市の暮らしを3万人程度のコンパクトな単位で、コミュニティよりも少し広い単位くらいで考えるべき。自治体や町内会で街づくりを考えるべきだが、

自治体の次が区ではなく、区をいくつかに分けたコンパクトな単位が必要で、それらのネットワークが重要。

- ・ 自治体個別の活動と区全体の動きでは議論が繋がらない。自治体と区の間をつなぐ仕組みが重要。

市民委員

- ・ 追加意見。よく言われるリージョン（生活文化圏）を住民自らが決めて、その中で循環型の街づくりをしようという考え方に近いと思う。

市民委員

- ・ 地形の問題や街づくりの経緯などもふまえて地区を設定していくべき。

市民委員

- ・ サステイナブルシティ、リージョンという2つの考え方を加えたい。

市民委員

- ・ 住民の希望が、町会があるが意見が吸い上げられていかない。地域づくりが町会と区だと駄目だとももっていたので、今の意見に同感。つながっていく仕組み・
- ・ 交通問題を身近に感じている。鉄道・交通基盤を整備する必要がある。災害対策や子どもの通勤などにも関わってくる。安全で便利な移動手段の整備（あらゆる人にとって）
- ・ 身近に小さい公園が結構あるが、使われていない。そういうものを集めてもっと鳥が来る、季節の花が咲くという大きな大人が楽しめる公園ができるとよい。小さいものではなくてもよい（難しいが）

市民委員

- ・ 外国人、障害者など声を出せない人の声を通じるまちへ。住所表示を道路基準に（今は平面的）
- ・ 住民の声を集めているが活かしているのか。都市マスの議論をしているが、住民の声を聞いたあと、どう活かして、どう活かさなかったのかの説明がない。2年間かけたが自分の意見の行き先がわからなく、むなしさを感じた。
- ・ 大人の居場所も欲しい。「市民主体」というときの「市民」はだれか。活動している市民は固定化している、これは課題。
- ・ 生活情報が届かない市民がいる。町内会は外国人、単身者等はずしている様子。外国人は言葉が通じないので分かるが・・・。

市民委員

- ・ 公的施設・都市施設の機能を「複合化」していくべき。学校は近隣のコミュニティ施設であり、高齢者の憩いの施設になればよい。大人の居場所であり子どもの居場所であり、中高年の居場所にすることを考えるべき。新しい施設の整備は不可能なので・・・。

市民委員

- ・ 同意見。今ある施設をいかに壊さないか。複合化・有効利用に加え、古いものを壊して新しいものを作るのはどこでもできる。今あるもので建築基準等の面で今は立てられない施設もある。横浜は関内地区の戦前のビルは歴史的建造物保存ということでやって

いるが、ああいった動きが川崎でもやってよい。産業遺産は横浜よりもあるはず。

市民委員

- ・ 道路サインの他言語化。

市民委員

- ・ 公共施設の共有化。

市民委員

- ・ 森さんに質問。道路・鉄道・交通基盤の整備の意見があったが、どのような整備が必要かという面で意見を聞きたい。たとえば環境に優しいとか・・・。

市民委員

- ・ 地域を通過する車をどうするか。地域で暮らす人が動きやすい。何をするにも交通基盤は優先なのではないかと思う。通過交通を渋滞なく通すようにすること。日常の渋滞をなくす。
- ・ 日常動きやすいような道。通学路に車が入ってきたりする。踏切が開かない等の不具合もある。そういうところをきちっとしておけば、他の施策も回りやすくなる。

市民委員

- ・ 道路は道路法で規格が決まっているが、最低限消防車が入れるような密集地は問題。近所の再開発計画は止まったままで、止まっている理由も分からない。最低限密集地には広場と消防車が入れるようなインフラの整備が不可欠と考える。

市民委員

- ・ 日本に来て、道路があるが歩道がないのにびっくりした。韓国は歩道が先で車道はあと。

市民委員

- ・ 交通は自転車や公共機関を利用できることが大切。人が歩いているところをもう少し安全にしたい。
- ・ 建物を建てる時に、最初から自転車が止まることを前提に、駐輪場の義務化を。自転車は環境にもよい。「問題」といわれるのは心外。

市民委員

- ・ 「歩道が有ってこそ道路だ」という考えを通すことが重要。今後の道路整備の理念として筋を通すべき。

市民委員

- ・ 通過交通が多いので歩道のない道路ができています。これは1つの大きな課題であり施策である。

市民委員

- ・ 道路は人のためにある。という考え方が重要。

市民委員

- ・ 昔からの地域は農道しかない。そこに歩道というのは難しいとすれば、車を通さないという発想も必要。

市民委員

- ・ 今車優先の道路は高度成長期の考え方だった。今はものの豊かさより心の豊かさを重視すべき時なので、道路整備についても考え方をかえるべき。

市民委員

- ・ 通過交通は排気ガスだけしか残さない。そういうものは地下にでも行って欲しい。

市民委員

- ・ ものと心はバランス。トラックも必要だが、入って良いところといけないところは分けて考える。輸送と人のバランスが壊れている。棲み分けが必要。

市民委員

- ・ 山手通りは地下道を造っている。桜木町の線路跡も公園になる。通過交通はそういう扱いにしてよい。

市民委員

- ・ 長期的にお金があれば、通過交通は山の中のトンネルを通して欲しいが、それは10年後の目標ではない。当面は通過する交通はスムーズに通すことを考えなくてはいけない。将来的な概念として素晴らしくても、5年10年のスパンでできることから考えて行かなくてはならない。

市民委員

- ・ 昔は道路で子どもが遊べたが今は遊べない。小さな公園は不要との意見もあったが、子どもが行けるところに公園がないのは困る。使われていないのは、なぜなのかを考えて変えていくべき。
- ・ 今の若い世代は外で遊ばないので遊び方を知らない。遊び方、自然とのふれあい方を教える必要がある。

市民委員

- ・ 大人も子どもも年寄りも居場所がない。一方使われていない場所が公民館、公園など沢山ある。皆の居場所がある川崎市というのがコンセプト

市民委員

- ・ 公園では大人の体操施設と子どもの遊び場（遊具）がある。大人の遊び場と子どもの遊び場の総合化という意味で、大人と子どもが一緒に行かれる公園が必要。
- ・ 細かいことだが、日本のブランコのイスは木または硬い材質でできているので危ない。韓国では厚い布でできていて、頭に打ってもケガをしないようになっている。そういった子どもへの配慮が必要。

市民委員

- ・ 市全体では、臨海部は工場地帯、こちらは自然が残る住宅地などと色分けしているが、これからは「どこでも住める」というコンセプトが重要。また、大きな施設は十分にある。むしろ小さな施設を自由に使えることにして、自分の文化や芸術をみせることができ、働く場もあれば理想的。住む・働くといった機能が一緒であることが理想的。
- ・ 川崎は海はあるが海がない、そういうことは今後ないようにしたい。

市民委員

- ・ 川崎の町の経緯はそうではなかった。

市民委員

- ・ これからの考え方を変えたい。工場が移転した後を有効につかって、市民が行かれるところ（海など）が欲しい。どんな海でも見れば和む。

市民委員

- ・ 2つの視点が必要。「ビオトープネットワーク」(自然の中で生き物がずっと生きて行かれるためにはつながっていることが重要)。
- ・ もう一つは「歩行者のための道」。安全に快適に歩ける、遊べるくらいの道。車が遠慮して人が中心の道。それが現状どうなっていて、それをいかにネットワークしていくかが重要。所々に文化的なポイントなど滞在させる仕掛けをつくっていくべき。

市民委員

- ・ キーワードをまとめてみた。

市民委員

- ・ 地域によって特徴がある。自分の住むところには子どもがいない。身近に、自分が住んでいるところには何が欲しいのか。美術館は遠くても良い。スポーツセンターは30分くらいのところに欲しいなど、地域にあったものがそれぞれあるだろう。そういう整理をすることが必要。地域で欲しいもの、声を集めていく仕組みづくりが必要

市民委員

- ・ 社協と町会がうまく連携しているケースもある。身近な声を吸い上げてくれる中間的な組織が必要。町会と区の間でコーディネートをする中間的な組織が必要。

市民委員

- ・ ボランティア、福祉・環境関連は不足している。環境問題は基礎知識も必要。認識の問題も必要。それぞれが毎日実践しなくてはいけない。車優先か人優先かなど、大きな考え方があって、意識がかわらなくてはいけない。
- ・ 小学校では町について学ぶが、環境教育についても強化してよいと思う。環境については基礎的な知識と意識が備わっていないといけない。

市民委員

- ・ 人と人との距離の取り方を重視する。人の言ったことをどうやって他の人に伝えていくかなど。これがすごく今分からなくなっている。挨拶以上に進まない近所関係が多い。子どもを預けられないひとが圧倒的。これは怖いから。お互いが分からないから。まずはいろいろな人がいるという認識から始まる。人権と環境の教育は極めて重要。

市民委員

- ・ 街づくりは人づくり。街づくりは人と人とのつながりづくりとも言うが、街づくりはそこに住んでいる人たちのつながりや連帯が重要。ハード先行ではなくソーシャルキャピタルという考え方もあり、そういう認識を打ち出すべき。
- ・ ある調査では、そういう社会資本が高いところでは、防犯や子どもの非行などが低い、出生率も高い。住み心地がよく、癒されて、人と人との連帯があるのが重要。ヒューマ

ンウェアが重要（ソフトウェア、ハードウェアに加え）

市民委員

- ・ 大きな紙に大きいキーワードをまとめた。あと30分で発表なので、大きいキーワードに寄せる作業をしたい。

（作業開始）

居場所のある（子どもも大人も高齢者も）

- ・ 子どもも大人も遊べる道
- ・ ストックインフラの有効活用・共有化、公共施設整備
- 職・住・遊・育・自然近接のまち（+文化、歴史、芸術）
- ・ 総合的なコミュニティ（機能別の計画は見直し、職・住・遊・文化の接近）
- ・ 環境教育が全ての川崎の子どもたちに
- ・ 自然や歴史文化を感じて暮らせる町

川崎ならではの街づくりの視点・仕組み＝人のつながりが川崎の資本である

- ・ 町づくり・の人材育成
- ・ 多文化共生
- ・ 多世代共生

道路はひとのためにある

- ・ 自転車・人が中心の道路と街（歩道の・・・）
 - ・ 防災インフラの整備（密集地の最小限の道路・広場）
- コンパクトシティ（住民が自治範囲を決めて暮らしていく）
- ・ 使い捨て用品を減らす

（追加意見）

市民委員

- ・ プログラムを沢山作ることも重要。
- ・ 生活に必要な安全を確保
- ・ 自転車中心の街づくり

市民委員

- ・ ゴミを出さない

市民委員

- ・ 工場跡地がマンションになる、斜面地がマンションになるなどといった動きに対して、大きな規制という考え方、個々バラバラではなく総合的な街づくりが重要。

市民委員

- ・ 統一されたデザインなど・・・。

市民委員

- ・ 高さ制限をどうする、建ぺい率をどうするなど地域によって特徴はあるが・・。

(全体会に移る)

グループ討議（Bグループ）

Bグループ委員 伊中委員、岩本委員、上野委員、鈴木委員、中村紀美子委員、松崎委員、
望月委員、淀川委員、渡邊委員
事務局委員 瀧峠企画調整課主幹、山田主査、鈴木主査

市民委員

- ・ 意見が出ている人から発表してもらってはどうか。

市民委員

- ・ 読んできてもらっているはずなので。

市民委員

- ・ すでに出している意見は参考意見なので、全員に発言してもらった方がよい。

市民委員

- ・ まず、10分ぐらいで付箋に意見を書いてもらいましょう。

（付箋に記入し、模造紙に貼付け）

市民委員

- ・ もう意見が無ければ議論をしましょう。

市民委員

- ・ 「環境は緑色」のように、模造紙上でグループ分けをしてみたらどうか。

（付箋を張りなおし、グルーピング）

行政

市民委員

- ・ 区役所を機能強化してもらいたい。
- ・ 小杉開発に行政指導が見えない。他地域での事例を勉強して、条例等で規制してもらいたい。

市民委員

- ・ まち局の人が来ているのだから、説明して欲しい。

まちづくり局

- ・ 拠点開発には2つの核を考えている。1つは研究開発拠点であり、もう1つは都市型住宅拠点である。細かなブロック別の計画はまだなく、拠点形成を進めている。環境影響評価は、それぞれの計画毎、建物毎に行っている。

市民委員

- ・ 溝口のような場所には用途地域に指定し規制をかけていく必要がある。高度規制をかけないと、100mを越すような建物ばかりになり、街が機能しなくなる。事業を開発・利

用・保全で分類すると、溝口の例は開発になる。

市民委員

- ・ 国の全総路線の転換が行われているが、国家政策に頼るのではなく、「住民の生活のまちづくり」、「環境と福祉のまちづくり」等を重点に川崎独自の政策をして欲しい。

川崎区

市民委員

- ・ 川崎区の40歳以下の人間は別な場所に移り住みたいという願望が高い。川崎区は住みにくいという印象を払拭し、職住が接近し女性も働けるような地域を作っていく必要がある。
- ・ また、別の産業に転換していくことも必要であり、IT関連産業、とくにソフトウェア産業などを活発化させる必要がある。

市民委員

- ・ NEC中央研究所が撤退していることから分かるように、日本ではIT産業に陰りが見えているのではないか。

市民委員

- ・ 川崎の海だけでなく、川や山など全てを含めてまちづくりを考えて欲しい。

市民委員

- ・ 川崎区は坂が少ないので自転車利用が有効。放置自転車については、発想を変えて、放置してもいいような公共物にするということも考えてみてはどうか。自転車利用を推進するために、自転車道も整備して欲しい。

市民委員

- ・ 羽田空港への通過点ということ考えると、小杉駅だけでなく、川崎の顔である川崎駅も充実して行った方がよい。また、ミュージア川崎などについても、川崎を売り込む材料として利用していくべき。

自然と環境

市民委員

- ・ 多摩川スーパー堤防をせっかく整備するのだから、自然面などで連携した動きが出せないか。マンションなどは作らなくてもよいが、鉄道を引いてくるなどは考えられるのではないか。

市民委員

- ・ 事業を実施するときにはアセスを行うが、壊された自然を回復する仕組みはない。緑の30プランだけではなく、深刻な場所を優先して保全していくような制度が必要。
- ・ 斜面緑地は崩壊危険性が高いため、開発をしていくことには不安がある。
- ・ 生産緑地は相続のときに失われる。手放された農地を市民農園にしていくなどの方向を考えていくべき。「梨は川崎」という言葉にあぐらをかいてはいけぬ。生産緑地は治山等にもメリットがある。

市民委員

- ・ 自然だけでなく観光についても川崎は恵まれているためあぐらをかいている。やっていることに慣れすぎてしまっただけではなく、トラスト運動が必要だろう。

市民委員

- ・ 屋上緑化については、マンションなどの屋上の他、川崎に多数ある研究所などの施設の屋上も対象にできるのではないかと。
- ・ 街路樹は今もあるが、自動車道で枯れたまま放置されている状態で、なんとかしなければいけない。

市民委員

- ・ 広域化ゴミ処理施設が計画されているが、ガス化溶融炉を使うため危険性、維持費の問題が大きい。むしろ、減量化を行うなどして市民の意識を高めていく必要がある。

市民委員

- ・ 私のところでは大気調査を行っている。昔は一部だけだったが、今は国道 246 号線沿いなど主要道付近が汚れてきている。行政でも同様の調査を行っているが、屋上などに設置した機器で行っているため、人間が受ける影響を測りきれていない。我々は人間の鼻の位置で測定しており、より詳細が分かる。
- ・ 国道 246 号線沿いの汚染は車が原因であり、自転車利用に転換していくことが重要。

市民委員

- ・ 川崎は高速道路などが横断しており、利用者は排気ガスだけを落としていっている。

教育

市民委員

- ・ 川崎の負の遺産ばかりでなく、正の遺産も次世代につなげていきたい。

市民委員

- ・ 橋樹郡衛のような歴史的財産は是非とも残していきたい。市は民間に売り払ってしまったが、国は保存しようとしている。市が保存しようとしなかったのは残念。
- ・ 学校、幼稚園、環境教育なども包括的に考えて、子供が自由に遊べるようにしていく必要がある

市民委員

- ・ 公園は整備されているが遊戯が出来るようになっておらず、他にこどもの遊び場所が必要。

市民委員

- ・ 遊び場所を新たに作るのは大変。
- ・ 虹ヶ丘小学校や河原町小学校では生徒数が減少しており、クラス換えも出来ない。統廃合すれば空き教室や運動場が有効活用できるようになるだろう。
- ・ 教育委員会はアンタッチャブルというのではなく、そういった内容を総計にも反映させていくべき。

市民委員

- ・ 北部と南部では学校に関して事情が異なるようだ。北部では、ある年に教室が突然足りなくなるということもある。

市民委員

- ・ 住宅開発が盛んなところでは教室が足りなくなるのだろう。

市民委員

- ・ 教室を開放するのであれば、老人も対象にするべき。

市民委員

- ・ 子どもの権利条例を作っているが、反映されていないのはなぜか。

市民委員

- ・ まちづくりは人づくり。市民が主体になる。

まちづくり

市民委員

- ・ 中原区も坂が少ない。車社会をやめたらどうなるか、メリットを考えながらまちづくりをしてはどうか。人が路面で遊べる、安心して歩ける、などのメリットがでてくるはず。

市民委員

- ・ 人口減少時代は持続可能ではない。作っては壊すということを繰り返しているだけでは持続は出来ない。快適な環境、安全な食品、住みやすい環境、こういったものなしでは将来を考えられない。
- ・ 具体的には、高層から中層への転換やゆったりとした道などが必要。国立市では条例で規制している。

市民委員

- ・ 自然は元に戻ろうとするから斜面緑地は防災に向かない。避難地は一箇所に集中させるのではなく、散在させる必要がある。

市民委員

- ・ 開発事業者に適正な負担を求める必要がある。まちを壊すだけでなく、土地を保全することを考えて欲しい。

全体のまとめ

市民委員

- ・ いままでの議論の主な部分をまとめます。

まちづくりは人づくり

資源の有効利用

高層住宅から低層住宅へ

車は少なくして、自転車利用を

斜面緑地の開発防止

事業者へ適正な負担を
市営地下鉄よりもミニバス（電気バス）利用へ

（全体会に移る）